



## 福島原子力事故関連情報アーカイブ

Fukushima Nuclear Accident Archive

Title	放射能心理の経時的変化から分類するリスクコミュニケーション
Alternative_Title	Risk communication classified from the viewpoint of temporal changes in radiological psychology
Author(s)	大谷 浩樹(帝京大学), 丸山 大成(帝京大学), 内藤 優斗(帝京大学), 野原 優来(帝京大学), 八尋 美鈴(帝京大学), 三崎 史歩(帝京大学), 佐野 茜(帝京大学), 中川原 佳恵(帝京大学) Otani, Hiroki(Teikyo Univ.); Maruyama, Taisei(Teikyo Univ.); Naito Yuto(Teikyo Univ.); Nohara, Yuki(Teikyo Univ.); Yahiro, Misuzu(Teikyo Univ.); Misaki, Shiho(Teikyo Univ.); Sano, Akane(Teikyo Univ.); Nakagawara, Kae(Teikyo Univ.)
Citation	第 8 回環境放射能除染研究発表会要旨集, p.96 The 8th Workshop of Remediation of Radioactive Contamination in Environment
Subject	セッション : ポスターセッション
Text Version	Publisher
URL	<a href="https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/182179">https://f-archive.jaea.go.jp/dspace/handle/faa/182179</a>
Right	© 2019 Author
Notes	禁無断転載 All rights reserved. 「第 8 回環境放射能除染研究発表会要旨集」のデータであり、発表内容に変更がある場合があります。 学会は発表の機会を提供しているもので、内容に含まれる技術や研究の成果について保証しているものではないことをお断りいたします。



# 放射能心理の経時的変化から分類するリスクコミュニケーション

大谷浩樹、丸山大成、内藤優斗、野原優来、  
八尋美鈴、三崎史歩、佐野 茜、中川原佳恵  
帝京大学 医療技術学部 診療放射線学科

## 1. はじめに

放射能に関するリスクコミュニケーションは、それぞれの放射能心理により個々に対応する必要がある。本研究は、人々の放射能に対する不安の経時的な変化を質的分析することで時系列の揺らぎを明らかにし、リスクコミュニケーションの多面性を分類することを目的とした。なお、本成果は2018年第1回NHK番組アーカイブス学術利用トライアルによるものである。

## 2. 研究方法

NHK番組アーカイブス学術利用トライアルにて、同じ放射能環境に置かれた人々の時系列における放射能心理の揺らぎについて質的分析を行った。

放射能関係のNHK番組VTR（表1）を視聴し、ナラティブ分析を行うことで人々の放射能心理を分類した。ナラティブ分析は質的研究として個々の経験を詳しく分析可能であり、時間経過に伴い、様々な心理的揺らぎを明らかにできるものである。また、人間同士の関係性を見ることにより、お互いの影響を分析することが可能である。本研究では、ナラティブ分析の分類のうちテーマ分析を用い、人々によって語られたことにストーリー性を見出し、時系列において類似するワードを抜き出し、それに対応するリスクコミュニケーションの構築を行った。

表1 主な視聴番組

放送日	番組タイトル
2011年9月11日 総合テレビ	全村避難 ～飯舘村 ある家族の150日～
2012年3月24日 総合テレビ	NHKスペシャル：故郷か移住か ～原発避難者たちの決断～
2012年8月5日 教育テレビ	ETV特集：福島の子供たちへ 長崎の被爆者より

## 3. 研究結果および考察

表2に各世代での心の揺らぎを示唆するワード（センテンス）を示す。各世代で放射能心理の揺らぎが異なり、若い世代では率直に不安を表す傾向にあり、高齢になるに従い自分の不安感のみならず家族に関係する不安が影響していた。また、社会経済的な考慮をもとに地域の中での振る舞いが現れた。

表2 各世代での時系列の心のゆらぎ

若い世代	中年世代	高齢世代
<ul style="list-style-type: none"> <li>もうだめかと思いました</li> <li>私のような子どもでも傷つく</li> <li>ちょっと怖い</li> <li>相当浴びたのではないか</li> <li>汚いところみたいになった</li> <li>甲状腺検査が少し不安</li> <li>なんか思い出が無くなった</li> <li>見えない恐怖</li> <li>これから生きていく上で大切なことを学んだ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちが不安</li> <li>家族全員で避難</li> <li>自分に自問自答</li> <li>先が全く見えない</li> <li>どういう実態なのか</li> <li>いつになったら帰れるか</li> <li>何のために帰るのか政府に聞きたい</li> <li>生きがいもない</li> <li>決断しなければならぬ</li> <li>なんで帰るのか</li> <li>腹立たしい</li> <li>前を向いて行く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちは完全に避難させる</li> <li>孫たちのこと考える</li> <li>孫とは離れたくない</li> <li>長い間、放射線の問題と向き合う</li> <li>放射線の影響が今頃出て来た</li> <li>気が弱くなるってこともある</li> <li>気休めを言っても仕方がない</li> <li>放射能事故としっかり向き合う</li> <li>長男が生まれた時には、5本指があるかと思った</li> <li>これは被ばくの影響かな</li> </ul>

## 4. まとめ

リスクコミュニケーションには定まった事例はなく多面性があること、および同一人物であってもその時々においてリスクコミュニケーションの方法が異なることを示唆した。

## 5. 参考文献

- 1) C・K・リースマン：人間科学のためのナラティブ研究法，クオリティケア出版，2014
- 2) 佐藤 彰 他：ナラティブ研究の最前線，株式会社ひつじ書房，2013